

## イチゴ灰色かび病の薬剤感受性検定結果

農業研究部

### 1. 研究の背景

「ベリーツ(大分6号)」は県オリジナル品種として、生産現場において品種転換を進めているところであるが、現地では灰色かび病が多発し、防除に苦慮している。そこで、本病に効果的な薬剤を選定するため、薬剤感受性検定を実施した。

### 2. 研究成果の内容・普及のポイント

- ・培地検定の結果、常用濃度では、ロブラール水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤、オルフィンフロアブル、セイビアー20フロアブル、ポリオキシシイミドに対する感受性が高かった。  
ただし、ファンタジスタ顆粒水和剤やポリオキシシイミドはMICでは感受性低下菌率が50%以上と高いため、散布には注意が必要である。
- ・一方、アミスター20フロアブル、及びシグナムWDGのピラクロストロビンについては、感受性低下が顕著であった。
- ・イチゴ苗を用いた生物検定の結果、セイビアー20フロアブル、パレード20フロアブル、オルフィンフロアブル、及びロブラール水和剤に対する感受性が高く、培地検定での結果を含め効果の高かったこれら4剤を基幹的防除薬剤として選定した。
- ・薬剤の使用に当たっては、今後の感受性低下の危険性を防ぐため、予防散布の実施や、過度な連用の回避等が望ましい。

表1 培地による薬剤感受性検定

系統	供試薬剤	感受性低下菌率		
		常用	100ppm	MIC
ジカルボキシイミド	スミレックス水和剤	33.1%	-	42.1%
	ロブラール水和剤	3.1%	-	26.2%
QoI殺菌剤	アミスター20フロアブル	55.9%	64.6%	70.1%
	シグナムWDGの1成分	55.9%	64.7%	74.1%
	ファンタジスタ顆粒水和剤	1.6%	27.1%	52.1%
SDHI剤	パレード20フロアブル	14.5%	-	-
	アフエットフロアブル	15.2%	-	25.5%
	カンタスDF	32.4%	-	46.9%
	オルフィンフロアブル	3.4%	-	-
アニリノピリミジン	フルピカフロアブル	29.0%	-	53.1%
PP殺菌剤	セイビアー20フロアブル	0%	-	4.3%
KRI殺菌剤	ダイマジン水和剤の1成分	15.9%	-	-
抗生物質	ポリオキシシイミド	2.8%	-	58.6%

※常用：農薬登録上の濃度、MIC：最小阻止濃度、100ppm：QoI剤の検定濃度

表2 イチゴ苗による薬剤感受性検定（3菌株）

系統名	QoI	PP系	アニリノピリミジン	SDHI	SDHI	KRI	ジカルボキシイミド	
薬剤名 菌株	シグナムWDG 1,500倍	ファンタジスタ 顆粒水和剤 3,000倍	セイビアー20 フロアブル 1,500倍	フルピカ フロアブル 3,000倍	パレード20 フロアブル 3,000倍	オルフィン フロアブル 3,000倍	ダイマジン水和 剤の1成分 2,000倍	ロブラール 水和剤 1,500倍
北部1	+	+	-	+	-	-	-	-
北部2	-	-	-	-	-	-	+	-
北部3	+	-	-	+	-	-	-	-

※ +：感受性低下、-：感受性

### 3. 期待される効果

産地の防除指導に活用できる。

### 4. 担当機関連絡先

農業研究部 病害虫対策チーム  
TEL：0974-28-2078  
住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8